



映画『雪子 a.k.a.』監督 草場尚也さん

自分だけの言葉をさがして

本音をリズムに乗せて発するラップであり、不安を抱えつつ過ごす小学校教師。2つの面をもつ女性を主人公に描いた映画『雪子 a.k.a.』が1月25日から公開されます。監督の草場尚也さんにインタビューしました。

インタビュー

雪子は、小学校の先生です。笑顔だけどこか

不安げ。昼休みは子どもたちのサッカーに付き合います。放課後は不登校児童の家に声かけ、土日も出勤して学級日誌を書く。毎日一生懸命やっています。毎日がうまくいかない。そんな雪子は、夜の公園で仲間たちと日頃言えないことをラップで吐き出します。彼女にとってラップは、自分を表現できる唯一の方法なんです。でもある時、思いがけず参加したラップバトルで、「あなたのそれは本音なの？」と疑問を突きつけられてしまふ。

法なんです。でもある時、思いがけず参加したラップバトルで、「あなたのそれは本音なの？」と疑問を突きつけられてしまふ。ラップって、歌詞で自分を語るんですよ。だから一人ひとり違う歌詞の「リック」がある。弱さも含めて、本当の自分から出た言葉を競うのがラップバトルです。雪子

が、好きなラップで自分の迷いを指摘されたことではじめて自分と向き合い、自分のリックをさがしはじめます。当初僕は、ラップで日々のもやもやを存分に表現するヒロインを思い描いていました。でも、30歳になる女性に何を語らせれば良いのか？ 男性の僕は、自分が当事者になりきれていない感覚



『雪子 a.k.a.』 出演：山下リオ、樋口日奈、占部房子他 / 1月25日より渋谷ユーロスペースほか全国順次公開 ©2024『雪子 a.k.a.』パートナーズ

く苦しかった。僕は、本音を言葉にできず迷う雪子も、学校に行けない子どももお父さんも、まわりの先生も、肯定しなかった。映画は、制作過程でやっと気付いた自分の思いも反映していると思います。この映画のなかで大事にしているシーンのひとつは、ラストの公開授業で「自分の好きなこと」を披露する子どもたちの場面です。自分のリックを見つけて、子どもたちをみつめる雪子の顔を、ぜひみなさんに見ていただきたいです。

ずいそう



旅をし、災禍の記憶を聞き、詩や物語として書いてきたり、絵にしたりしている。はじまりは、東日本大震災のボランティアで東北の沿岸部を訪れたこと。重いものを運ぶ体力も、医療等の専門的な知識もなかったが、役に立たないと落ち込む暇も

なく、被災地にはやるこ

とがたくさんあった。物

資の仕分けや掃除、子ども

たちと遊ぶこと、凍える

人の冷えた手足をさする

こと。そして、話を聞く

こと。現場の状況やこ

ぼれ落ちる声を書きとめ

て、誰かに手渡すこと。

人や土地との出会いがあ

って、記録係を引き受け

たいと思うようになり、

陸前高田や仙台に10年弱

暮らした。

2024年元旦に能登

こぼれ落ちる声を手渡す

瀬尾夏美 (アーティスト)

半島地震が発生した。最初に赴いたのは5月だった。やはりあの時と同じように、やるのがたたくさんあった。崩れかけた屋敷をひとり片付けて高年齢の女性に声をかけ、半日一緒に作業をした。災禍に遭い、傷ついた人がいれば駆けつけた。とても自然な感覚のはずだけど、いまの社会の空気を生活の余裕のなさ等によって、動くことへのハードルがつり上

が、困ったときはお互いさ。まは、困難にある人への手助けであると同時に、支援する側にとっては、不安や無力感から回復する過程でもあるだろう。昨年秋、「のと部」を立ち上げた。現地に行くのを迷う人の背中を押したり、遠隔でできることを探し、手を動かすゆるやかな場だ。ひとりひとりが主体性を取り戻し、動き出せたらと願う。

BOOK

代田知子さん 子どもの本 大人もぜひ!

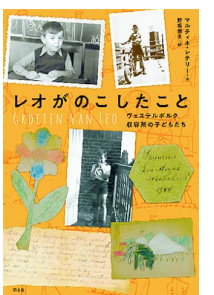
1冊目は、今年こそ平和を!という願いを込めて『空はみんなのもの』を紹介したい。空を見上げて少年がつぶやく。空ってみんなの空だよ。子どもも王さまも道路工事の人も、みんなにそれぞれの空があり、足りなくなかならない。でもどうして、大地はさかいめだらけなんだろう? イタリア児童文学の巨匠ロダーリが約60年前に書いた詩に、荒井良二の力強いびやかな絵が加わり素晴らしい絵本になった。なぜ戦争をするの? 教えて、と問う子どもたちの声が聞こえるように胸を突かれる。



空はみんなのもの ジャンニ・ロダーリ 文 関口英子 訳 荒井良二 絵 (小学校低学年~) ほるぷ出版 1700円+税

2冊目は『レオがのこしたこと ヴェステルボルク収容所の子どもたち』。第二次世界大戦中、10万7千人のユダヤ系オランダ人がオランダ北西部の強制収容所に収容された。本書は、自宅から突然、両親と一緒に連行された7歳の男の子レオの2年間を、残された写真や絵とともに子どもの目線で語る物語。読みやすく、ホロコ

レオがのこしたこと ヴェステルボルク 収容所の子どもたち マルティネ・レテリー 作 野坂悦子 訳 (小学校高学年~) 静山社 1400円+税



ストの実際が良く分かる。親子で読んでほしい。

3冊目は詩人の作者が描く『しじんのゆうびんやさん』。小さな郵便局で働くガイトーとトリノス。ある日ガイトーは、一度も手紙をもらったことがない灯台守のために手紙を書いた。トリノスが配達すると、そこには詩が書かれており…。街の誰かさんのために心を込めて手紙(詩)を書き、届けるふたり。それらの手紙が人々の心を優しく動かす。人間にはまだ希望がある。そう思える物語だ。



しじんのゆうびんやさん 斉藤倫 作 牡丹靖佳 画 (小学校高学年~) 偕成社 1600円+税

他人屋のゆうれい

王谷晶

派遣で働く二十代の青年、大夢が主人公。急死した伯父の部屋に住むことになるが、その部屋には「幽霊」がついていた。長い内廊下で

承認をひらく

新・人権宣言

暉峻淑子

権力を持つ者が、承認すべきものを承認すべきでないものを恣意的に承認したこと、森友事件などの問題が相次いだ。一方で、日本学術会議の会員候補を任命しないなど、副題に「新・人権宣言」とあるように、格差社会の拡大が進む社会に異議を唱え、連帯の大切さを説く。今年97歳の著者の集大成とも言える本。



他人屋のゆうれい 王谷晶 著 朝日新聞出版 1800円+税



承認をひらく 暉峻淑子 著 岩波書店 2300円+税

編集部から

1面、80歳までに3人に1人がなるという帯状疱疹。した人も、疲労やストレスをためないように、今年珍。周りに聞くと体験者が必要。なかには再発も元気に行動している。(玲)